

「 協同組合運動を楽しんで 」

—男女共同参画から女男共同参画へ—

J A コスモス
福祉生活部 中村 都子

～ 初めは男女共同参画から ～

1 真心と健康を売る 農産物直売店「はちきんの店」

昭和 61 年 8 月 25 日

- ・ 農家の良心を売る

2 女性部「ちいばっばスクール」の開校

- ・ 学習や楽しみ、明日への活力の場作り

～ 時代は福祉事業へ ～

3 ヘルパー養成

- ・ 管内 721名 (1・2・3級)

4 助けあい組織「にこにこ会」の発足と行政からの福祉事業の受託

(1) 会員それぞれの特技を生かした班活動

- ・ 料理班
- ・ デイサービス班
- ・ ホームヘルプ班
- ・ ボランティア班
- ・ 演芸班

(2) 行政からの受託事業

- ・ 配食サービス
- ・ ふれあいサロン
- ・ 訪問介護
- ・ 外出支援サービス

- ・ 宅老所
- ・ デイサービスセンターでの昼食、おやつ作り

～ 女男共同参画への取り組みへ ～

1 介護保険事業への取り組み

- ・ にここ会との連携
この中で見えて見えてきたもの

- ・ 介護支援専門員への挑戦

2 あぐり3スクールの開校

- ・ あぐりキッズスクール 「大人になっても忘れないよ」
- ・ あぐりミドルスクール 「いつまでも現役」
- ・ あぐりライフスクール 「これからはJAがおもしろい」

3 男性だけの活動の組織化

「赤い禪隊」の結成

- ・ 結成についての思い
- ・ 経過
- ・ 活動内容と今後に望むこと

4 JAの生活・福祉・介護事業について思うこと
すべては人に始まりひとに終わる

JA コスモス (高知県)

取材:小島英資

「あなたがここに住んでいることを、私は決して忘れはしない」。

活動の原点は「はちきんの店」。

高知市内から、車で約1時間。山間の典型的な小さな町といえる佐川町に、JA コスモス女性部があった。助けあい組織「にこにこ会」である。きょう取材させていただく方は、福祉生活部の中村都子さんと「赤い禪隊」隊長の中村卓司さんの最強NNコンビ。土佐の「いごっそう」と「はちきん」の両名である。ちなみに「はちきん」とは、南国土佐のはっらつさを、行動、思考、容姿の面で極端に発揮した場合を言うらしい。



中村都子さん

8つの支部で構成されたJA コスモスの助けあい活動は活発で、部員は現在約800人。目的別グループ活動が盛んで、各部員が興味あることに自主的に取り組んでいる。そもそも「赤い禪隊」結成の原点も、その活動の中心であった「はちきんの店」にある。

「お母ちゃんのへそくりを増やすこと」を目的にして、いまから21～2年前に活動が始まった。お母さんたちの経済的な基盤づくりを目ざしたのである。当時、営農指導部の係長がたかしさんで、その部下がミヤコさんだった。当初手がけたのは50万円自給運動と家庭菜園コンクール。ここでミヤコさんは、多品目で食べきれない食材の現状を知る。そこで考えた。「お金に換える、何かいい方策はないか」と。

「もともと農家のお母さんはしっかり者で、作物をすぐ商品化してしまう男性と違って、食べるもの、使うものの、見る目がある。にもかかわらず、女性は家から出づらい。お金も自由にできない。営農の担い手としてはお父さん以上なのに、なかなか認めてもらえないのが現状。ほんとにおかしいでしょ?!」。それなら「自分たちでお金を稼ぐ場を作ってしまおう」と、女性たちの力を結集して始めたのが直販市「はちきんの店」である。



店内風景

を、お母さんたちが販売する「はちきん」は当たった。現在は、高知市内の店舗を含め管内に4店舗、大阪に1店舗、東京に1店舗と発展している。

「はちきん」のおかげで、子供たちを、お母さんたちが販売する「はちきん」は当たった。現在は、高知市内の店舗を含め管内に4店舗、大阪に1店舗、東京に1店舗と発展している。

「はちきん」のおかげで、子供たちを、お母さんたちが販売する「はちきん」は当たった。現在は、高知市内の店舗を含め管内に4店舗、大阪に1店舗、東京に1店舗と発展している。

「はちきん」のおかげで、子供たちを、お母さんたちが販売する「はちきん」は当たった。現在は、高知市内の店舗を含め管内に4店舗、大阪に1店舗、東京に1店舗と発展している。

「はちきん」のおかげで、子供たちを、お母さんたちが販売する「はちきん」は当たった。現在は、高知市内の店舗を含め管内に4店舗、大阪に1店舗、東京に1店舗と発展している。

「男は、ここぞっという時はやるもんじゃ！」



隊長の中村卓司さん

「お父ちゃんたちに」Aに足を運んでもらう方法はないか？」ミヤコさんたち女性部は、男性のための研修会と銘打って、「講演会」「男の料理教室」を開催して男性を集めることにした。2年前のことである。酪農、お茶、水稲、苺部会などの男性たちに、熱心に声をかけ続けた。「男性だって集まれば、意外と家のことに興味を持ってくれるはずだ」と。

会終了後には、酒好きの「いごっそ」に手作りの料理と酒を振舞うことにした。家の光講師の明神宏和先生には「ゆくゆくは男性組織として、結成させたい」と事情を話して、前もって作戦を

練った。講演会のタイトルも、意外性を求めて「おっと、赤い禪じゃ」に決定。当日、ふたを開けてみると、33～4人が集まってくれた。

明神先生は、自分が教師をしている時の卒業式のときの教頭先生の話をした。堅物で有名だった教頭先生が「男は、ここぞっという時はやるもんじゃ!」。そう言って、赤い禪一丁になって踊った話をしたのである。効果てきめん。あとは思惑通りに、飲ませて、食べさせて、酔いも回ったその時に「男性組織を結成したいけど、皆さんいかがでしょうか?!」。酔っている男たちは「ええやっ! ええやっ!」。たかしさん「禪隊はどうやっ!」。ミヤコさん「きた、きた、きたっ!」と。「皆さんに手作りの赤い禪、婦人部からプレゼンとします」。

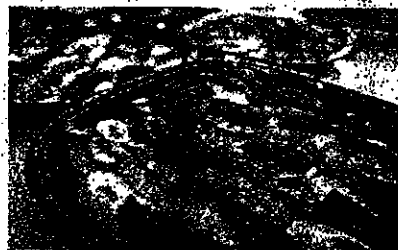
「これは、なんかおかしいぞ」と思っても、時すでに遅し。「ミヤコちゃんの仕掛けに、みごとにはめられたんですわ」と隊長。こうして、日本では唯一無二の男性部助けあい組織「赤い禪隊」は、ミヤコさんの手練手管が功を奏して実現したのだった。

「すべては、自分のための介護予防」。



1年の同好会を経て本格的な活動を続けている現在、部員は平均年齢約65歳の52～3名。年2回の料理教室を始め、剪定や草刈り、お弁当の配達、イベント時の誘導や送迎、ミニデイサービスなど、男手の欲しい場面で、女男共同参画の婦

人部のための「困った班」として大きな役割を果たしている。「特に奥さんに先立たれた男性は弱い。氣力をなくすし。料理教室だってなんだって、自分のための介護予防ですよ。何かやりがいを持つことはとてもいいこと」と、男性たちにとりわけ「赤い禪隊」の男性ならではの農業技術やノウハウを發揮しているのが、JAコスモス主催の「あぐりスクール」。農業や命の大切さを学ぶキッズスクール、一線を退いた人たちが農業を通して生きがいを探るミドルスクール、農業を学習して生活に役立てるライフスクールの3つのスクールだ。



毎回遠方からの参加者もあって、盛況だ。禪隊隊長のたかしさんは、スクールの教授?!になることもしばしば。「何でJAが子供教育を、そう言われたりもするが、昔の廃れたいいことを見直そう、いま発掘しておかないとあかん」。それが街の元気や地域の

活性化にもリンクしていくと強調する。「木は大木になるのに100年かかるけど、10歳の子供は10年で大人になる。昔の農協はみんな接着剤みたいな役目と仕事をしよった」。いい環境づくりといい循環づくりが、いまこそ地域にとっていちばん大切なこと。「あぐりスクール」存在の意味はここにある。

「J Aらしさって?!」「みんなで力を合わせる事かな。みんなひとりではできないことを思い知ること。ここで育てられ、生きてきた。そのことを忘れずに心を繋いでいかないと」ミヤコさんはつくづくとそう言う。机上の空論からは決して生み出すことができない助けあい組織。たとえ求めることが組織をはみ出し、暴走気味になったとしても、みんなの心を繋ぎあうことができれば、それが活性化への原動力になるはずだ。実現できれば、そんな幸せなことはない。

ミヤコさんは言う。「究極の助けあいって、あなたがここに住んでいることを、私たちは決して忘れないってことだと思う。カタチだけの介護ではなく心からの介護こそ、真の介護でしょう」と。



男の料理教室参加の隊員の皆さん

JAコスモス管内の概要

JAコスモスは、仁淀川町、いの町小川、いの町上八川、いの町下八川、いの町清水、日高村、佐川町、越知町を事業区域として、中山間地農業者を中心とした地域住民が組合員となっている。中山間地農業では、高齢化や就農者の減少などの中で国の政策についていけない状況であり、高齢化率も高く、65歳以上人口の比率は23.9%（全国第2位）と、有数の高齢化先行県となっており、現在は、出生者数が死亡者数を下回り、人口自然減の県となっている。

市	総面積 (ha)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	総農家 (世帯)	65歳以上 (人)	高齢化率 (%)	要介護者 (人)
佐川町	10,121	14,447	5,384	1,165	4,374	30.3	817
仁淀川町	33,296	7,347	3,399	1,178	3,395	46.2	568
越知町	11,158	6,952	2,793	591	2,655	38.2	452
日高村	4,488	5,895	2,157	417	1,735	29.4	401
いの町	47,071	27,068	10,005	1,137	7,344	27.1	1,391
合計	106,134	61,709	23,738	4,488	19,503	34.2	3,629

出展：農林水産省「わがマチ・わがムラ市町村別統計データ」より（平成19年4月1日現在）



家の光 2007年12月号

男性を巻き込んだ 助けあい活動の巻

JAコスモス女性部 ●高知県

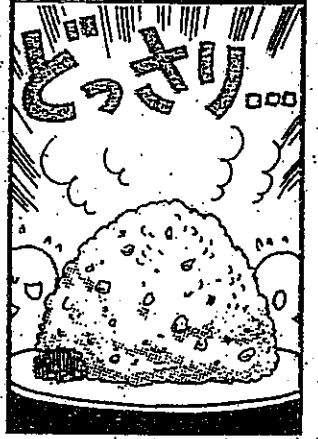
「参加者みんなが主役」をモットーに、女性部から始まった助けあい活動。そこへ頼もしい男性サポーターが誕生しました。女性と男性、たがいに刺激し合いながら、活動は勢いを増しています。
マンガ 白ぶくろう舎

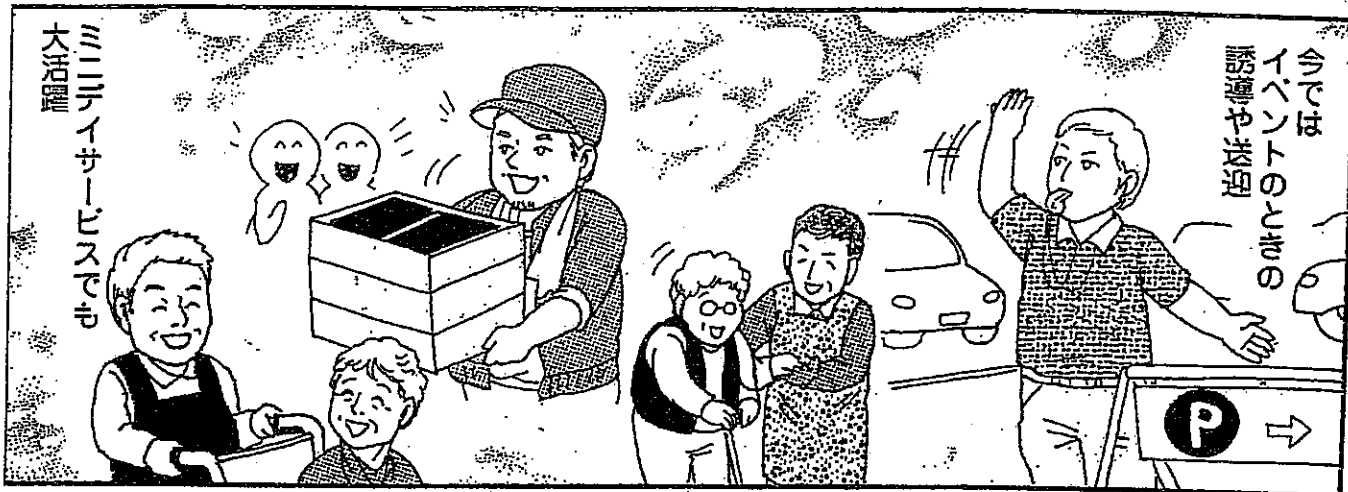




たがいに主体的な関係を築き 活動は順調でしたが……







今では
イベントのときの
誘導や送迎

ミニミニサービスマン
大活躍



女性部の総会へも
参加しています

ウチは
「男女共同参画」でなく
「男女共同参画」じゃ!



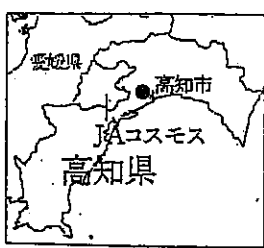
いっしょにやれば
おたがい
きりめき合える

これからも
女性と男性
刺激し合って
がんばります!



男家
頼もしいね

わたしたちの
「困ったとき班」だね



JAコスモス女性部
佐川、吾川、池川、吾北、日高、斗賀野、越知、仁淀の八つの支部で構成。現在部員九百五十五人。目的別グループ活動が盛んで、各部員が興味のあることに自主的に取り組んでいる。毎年秋に開催している「ふれあいウオーキング」が、支部を超えた部員同士の交流の場。JA祭りや各種イベントに参加し、部員拡大に努めている。

「部員あつてこそその女性部」。これからは毎日を楽しみながら、農業や食について地域の人に伝えていきます。

子どもたちに農業のたいせつさや食文化を伝える「あぐりキッズスクール」、生活をより楽しむことを目的とした「あぐりライフスクール」（いわゆる女性大学）、定年退職前後の方に農業の楽しさを伝える「あぐりミドルスクール」……。部員一人一人が学習しながら、地域住民と交流し、女性部の存在を広くアピールしています。

活動の秘訣!
農家の暮らしを
楽しみながら伝える

